

これを受け、このような意図であるなら、ニューガラスフォーラムが母体となって出版することが相応しいと考えました。そこで、同フォーラムの運営委員会にお諮りし、本のコンセプトを練り上げる作業を行いました。

その結果、以下のようにコンセプトを決定しました。

<本書のコンセプト>

- ・私たちの身の回りには、普段目にしないところも含めて、とてもたくさんの機能を持ったガラス製品が使われていることを読者の皆さんに知って頂く
- ・一見普通のガラスに見える製品にも、機能を高めるために様々な工夫が施されていることを知って頂く
- ・これからどんな新しいガラスが登場しようとしているのか、知って頂く
- ・上記の理解の助けとなる、ベースとなる最低限のガラス材料科学の知識を盛り込む

これらが反映され、本書の構成は次のようになりました。

<本書の目次>

- 第1章 ガラスっていったいどんなもの？
- 第2章 え！こんなところにもガラス？
- 第3章 普通のガラスも不通でなくなる
- 第4章 未来に向けてガラスはますます高機能化する

構成が決定してからは、ニューガラスフォーラム加盟各社で執筆案を出し合って、分担を決定しました。執筆に当たってはひとつの約束事として、「高校生でも理解出来る記述に努める」ということを徹底しました。

こうして出来上がったのが本書です。ガラスにご興味をお持ちの読者の方には、ガラスとは一体どんな材料なのか、今の時代にどんな機能を持ったガラス製品が使われているのか、これからどんな風に発展するのか、について、ま

まった知識を獲得出来る本に仕上がったのではないかと思います。また、ところどころには「コラム」としてガラスにまつわる逸話が何箇所か挿入されていて、楽しめるのではないかと思います。

完成に携わった者として、この本がひとりでも多くの方々に、少しでもお役に立てば幸いと思っています。今の時代はネットですぐに情報が拾えますが、本書に関しても「日刊工業新聞社」「ガラスの科学」で検索すると、すぐにヒット出来ます。特に日刊工業新聞社のサイト*では、詳しい目次と「はじめに」の箇所が閲覧出来ますので、ご参照頂ければと思います。

実際にご執筆を担当下さった方々がご所属の会社名は本書の巻末に記載されていますが、この場をお借りして改めて深く感謝申し上げる次第です。また、校正作業の不手際により、いくつかのミスを見逃したまま本が出来上がってしまいました。この場をお借りして深くお詫言申し上げるとともに、正誤表が上記サイトの一番下にありますので、ご参照頂ければと思います。

最後に、本書の出版に関わった一技術者として申し上げたいことがあります。ガラスの歴史はとても古く、過去様々なガラスが開発され、人間の豊かな生活を支える重要な材料として広く一般の生活に浸透していることが、本書の編集を通じて改めて実感されました。一体、どれだけたくさんの人々が過去ガラス産業の発展に貢献されてきたのか、考えるだけで畏敬の念を抱かずにはおられません。本書の最後の章「未来に向けてガラスはますます高機能化する」の内容は、まさに現在ガラス技術開発に取り組んでいる私たち技術者および研究者が担っているのだ、ということを改めて考えさせられた次第です。

* <http://pub.nikkan.co.jp/books/detail/00002594>